

自己評価結果公表シート

(H29年度9月末現在)

作成 白ばら幼稚園

園長 森田 真弘

1、本園の教育理念・教育目標

- ◎教育理念・・・安定した情緒の下、日々の幼稚園生活を過ごすことで、感性豊かな心とたくましいからだを兼ね備えた真の国際人を育て、明るい日本の未来を創造する。
- ◎教育目標・・・当園が考える真の国際人とは？
- ・素直な子
 - ・明るく朗らかで活発な子
 - ・喜んで様々な活動に取り組める子
 - ・規律正しい子
 - ・礼儀正しい子
- を育てることで日本の未来作りに学園として貢献する。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- 森田学園創立100周年に向け、これまで高槻に場所を移してから半世紀にわたる当園の保育を見つめ直し、これから次の半世紀にわたり必要とされる教育内容への新たな取り組みに向けて更なる一歩を踏み出す。
- ・国際化社会に通用する人材育成の基礎を築く
 - ① 対人間コミュニケーション能力の育成(アクティブラーニングの導入等)
 - ② 英語保育の充実(インターナショナルクラスの運営)
 - ・日本人として誇りを持って世界で活躍できる人材の育成の基礎を築く
 - ① 態度教育(挨拶・返事・履物をそろえる・立腰・食育)の導入により、より日本人らしい規律と礼儀正しい意欲の高い子どもを育成する。
 - ② 教職員が態度教育を園児・保護者に向けて率先垂範できる様、教員向け研修を行う。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
対人間コミュニケーション能力の育成(アクティブラーニングの導入) 当園が考えるコミュニケーション能力の育成とは？ ①フェイスツーフェイス ②双方向型 ③問題解決型 以上3つの要素を大事にする。	ネット社会による対人間コミュニケーション能力の低下が叫ばれる中、幼稚園生活においてはどの子ともうまく適切な人間関係が築ける様、言葉による問題解決を目指した言葉がけを日々教職員が園児に対して行っている。今後は子ども同士が議論できる場をどれだけ保育の中で提供できるかが課題である。 設定保育において、これまでの教師から園児への一方通行的な指導方法から、園児の自発的な発想、発言を大切にし、自己達成感を感じられる様、意図的に園児に発言を引き出す質問をするなどの働きかけが必要である。 また絵画制作等においては教師対園児〇〇名という保育室内の構図から、クラス内にいくつかのグループを作り、グループで話し合うことでそのグループオリジナルのひとつの作品(結果)を作っていくなど、アクティブラーニングの導入に向けて小学校見学を行っている。また幼稚園教育要領の改訂に向けて当園にはどんな課題があるかを全職員で議論する場が必要である。
英語保育の充実(H29年度～インターナショナルクラスの運営)	当園では週2回×3年間の英語保育を行っており、英語教諭が言っていることは卒園時にはほぼ100%理解可能となってきている。しかしながら自分の言いたい事、言いたい気持ちが園児の発

	話からアウトプットとして英語教諭に対して出ているかという点不十分である。よって英語で双方向型のコミュニケーションができるという意味のバイリンガルを育てるためには英語の時間を格段に増やす必要があり、インターナショナルクラスのさらなるカリキュラムの改良に向けて、外国人講師の採用・研修などの準備を行っている。また日本人教諭からの英語の発話も大切になってくることから、在職中の教職員に対して英語保育の必要性の理解を深めていくことが今後の課題である。
態度教育(挨拶・返事・履物をそろえる・立腰・食育)の導入により、より日本人らしい態度を備えた子どもを育成する。	当園の最大の教育目標である真の国際人の育成とは日本人らしい国際人の育成であり、ひいては日本人として誇りを持って社会で活躍できる人材の基礎を幼児期に培うことである。そのためにはしつけの崩壊が叫ばれている昨今、今一度日本人が家庭にて当たり前に行ってきたしつけを幼稚園にて補完的に行っていく必要があると考え、態度教育に少しずつ取り組み出している。教職員に対して態度教育の必要性の理解と、教職員がまずは実践することで園児、そして保護者が変わっていくことの認識を徐々に深めていくことが今後の課題である。
教職員が態度教育を園児・保護者に向けて率先垂範できる様、教員向け研修を行う。	研修によって態度教育の必要性、態度教育の基本を学ぶことでその後、自園に合う態度教育の中味について教職員で議論し、オリジナルなものを作り上げていく。 研修は知識で終わってしまうことがあるため、更に理解を深め、教職員が率先して園児とその保護者に態度教育を示せる様、率先垂範の気持ちの教職員の中に醸成して行きたい。
子育て支援(未就園児クラス開設・長期休業中の預り保育の実施に向けて)	幼稚園教育要領の第3章にも書かれている通り、幼稚園には地域子育て支援の役割が求められており、その必要性が年々増してきている。そういった中で長期休業中の預り保育については、今年度から夏・冬休み中の預り保育を開始し、今後は春休み、そして早朝預り保育の実施に向けて準備を進めている。また2歳児クラスについても国からの要請を待つまでも無く、待機児解消の一助と地域子育て支援の役割を担うべき準備を進めている。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

10年以上の年月を費やして行ってきた園舎・園庭の改築改修が終わり、来るべく東南海地震に備えてハード面での課題はクリアすることができた。その反面、職員間における当園が進むべき保育内容(ソフト面)についての議論が不十分である。引き続き在園児の幼児教育を中心に据えながら、未就園児の子育て支援から卒園児の学習支援を含めた総合的な教育機関の実現に向けた学園としての課題に優先順位を付け、どう順序だてて取り組んでいくかが今後の課題である。
--

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
長期休業中の預り保育の更なる実施	パート教員の確保による春休み中の預り保育、職員のローテーションによる早朝預り保育の実施に向けた準備を行う。
2歳児クラスの実施	幼稚園の空き教室を利用して少人数の2歳児クラスを実施するため、パート教員の確保に向けた準備を行う。
自園給食の実施	給食室の整備、調理の委託業者の選定に向けて準備する。またそれに向けて完全給食(外注仕出し弁当による)への取り組みがまずは必要である。
卒園児対象の学習教室の開校	幼稚園で3年間学んだ英語・体操のさらなる向上に向けた学習の場と、小学生に基礎的学力として必要な読み・書き・計算(そろばん)を学べる卒園児対象の放課後学童保育室の整備に向けた準備を行う。